

外務省南部アジア部南東アジア第二課での勤務を通して

平成24年1月
外交実務研修員 直井 佳子
(東京都からの派遣)

平成22年4月より東京都から外交実務研修員として外務省に派遣されている直井と申します。経済局政策課での勤務(平成22年4月～平成23年4月)を経て、平成23年5月より南部アジア部南東アジア第二課にて勤務しております。また、現在は、外交実務研修の一環として、外務省と地方自治体との連携について学ぶため、地方連携推進室において約1ヶ月の研修を行っています。

この場をお借りして、南東アジア第二課の業務内容や、同課での勤務を通じて経験したことや感じたことをご紹介しますと思います。

1 南東アジア第二課の業務

私が所属する南東アジア第二課は、インドネシア、シンガポール、東ティモール、フィリピン、ブルネイ、マレーシアに関する外交政策を担当し、これらの国々と日本との外交関係強化のための政策立案を行っています。

同課において、私はインドネシア班に所属し、インドネシア語の専門家である職員の方々に日々ご指導頂きながら、インドネシア業務の一端に携わらせて頂いております。

2 インドネシアについて

皆様は、インドネシアという国に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか。私は、南東アジア第二課で勤務する前までは、多くの島々から成る国というイメージがあるだけでしたが、勤務後はインドネシアの奥深さを日々感じております。

インドネシアは、東南アジアの大国であり、ASEAN全体のGDPの約3分の1を占めることからASEANの中核の国と言われております。また、世界4位の人口を有し(約2.38億人)、世界最多のイスラム教徒人口(人口の約90%)を擁する国であることも特徴の1つです。経済分野においては、インドネシアにとって日本は最大の輸出相手国であることから、特に緊密な関係だと言えます。

そして、2011年1月にAKB48の海外初の姉妹グループであるJKT48が誕生したことも注目すべき点です。右グループは、秋元康氏がジャカル

タで行った最終選考を通過した第一期生28名によって構成されており、現在、インドネシアでポカリ・スエットのCMに出演しています。この事例は、日本とインドネシアが文化芸能面においても、より身近なものになりつつある象徴の1つと言えるでしょう。

3 印象に残っている業務

南東アジア第二課で特に印象に残っている業務は、2011年6月のユドヨノ・インドネシア大統領訪日準備業務です。要人往来の準備は、まさに地域課ならではの業務であり、特にユドヨノ大統領訪日にあたっては全課体制での対応となりました。私は、いわゆるロジ業務の一端に携わらせて頂きましたが、連日深夜にまで及ぶ会議を重ねることで、各行事の次第や関係者の連絡先、各行事や担当者の当日の動きなどを集約したロジブックが段々と内容が濃いものとなっていく様を目の当たりにすることで、外交というものは1つ1つの作業の積み重ねであるということ学びました。

また、それと同時に、南東アジア第二課の職員の方々がユドヨノ訪日成功に向けて一丸となって業務にあたる熱意と底力を肌で実感することができ、非常に有意義で何事にも代え難い経験をする事ができたと思っております。

4 最後に

外務省での勤務は、地方自治体では体験することのできない様々な経験をすることができ、自分の視野が広がっていくことを実感する毎日です。任期を全うし東京都に戻った後も、ここで得られた経験は大変良い影響を与え続けるものと確信しております。

最後になりましたが、外務省で仕事をする機会を与えてくださった方々、また日頃温かくご指導くださっている外務省の皆様へ改めて御礼を申し上げます。

(了)